

## 樺太・千島交換条約を結んだ榎本武揚

### 薩摩・長州との戦を避け「蝦夷共和国」を宣言

榎本武揚(たけあき・ぶよう)は天保7年(1836)江戸の浅草橋付近で生まれ、名は釜二郎。父は地図作成で知られる伊能忠敬の弟子で、名は鍋二郎と呼ばれ親子でナベカマになっていた。嘉永4年昌平坂学問所に入学、2年後に修学するが成績は甲乙丙の「丙」だった。

そんな榎本がオランダ留学を経て、戊辰戦争、投獄、開拓使、ロシア特命全権大使の後に大臣になり、政治家として活躍。旧幕臣が新政府を代表して、初めての国際交渉で樺太と千島交換条約を結んだ。

#### オランダへ留学し「国際法」を知る

- \*安政元年(1853)蝦夷の測量に19歳で参加、函館---小樽---留萌---宗谷から樺太へ
- \*その3年後に長崎海軍伝習所へ志願し聴講生に、安政4年(1857)に第二期生として入学。安政5年に修了し、江戸の築地軍艦操練所の教授となる。このころ、ジョン・万次郎の私塾で英語を学ぶ。
- \*文久2年(1862)オランダに蒸気軍艦開陽丸を発注したことで、オランダへ留学する。もともとはアメリカへ発注する予定が、アメリカの南北戦争の拡大により変更になった。
- \*オランダ行きは6月に咸臨丸で長崎へ、そこからオランダ船に乗り換えて出港。途中ジャワ島沖で遭難し無人島に漂着するが、助けられて客船に乗り換えセントヘレナ島に立ち寄り、オランダのロッテルダムに1863年4月18日到着。
- \*オランダでは船舶運用術・砲術・蒸気機関など学んだが、国際法を知ることが後々に計り知れない大きな財産になった。
- \*留学中には、デンマークとプロイセンの戦争を武官として見学。この時軍事力だけでなく、領土・領海・戦争・交渉などの国際法の必要性を知る。
- \*5年間の留学を終え開陽丸(2950t)を引き取り帰国したが、待っていたのは幕末の動乱だった

#### 国を割るより「新しい国」を創る

- \*1867年大政奉還 --- 薩長は軍事行動に --- 榎本は開陽丸の艦長に --- 慶応4年開戦、幕府の海軍は勝利するが陸軍は大敗する --- 慶喜は大阪城を脱出し開陽丸で江戸へ逃亡する
- \*軍艦・大砲はすべて新政府に引き渡すことに。慶喜は陸上戦のみで判断してしまったが、上様は戦を知らないと言った。
- \*海軍ができたことは、新しい学問と新しい人材が求められる時代が来たと考えた
- \*慶応4年陸軍総裁の勝海舟と相談して、オンボロ船4隻を新政府に渡して決着させる。
- \*幕府の直轄領は400万石から70万石に
- \*薩長は耐えきれないと見て、ここは一戦交えてでもと考える。現に奥州越列藩同盟は、すでに新政府と交戦していた。が、同盟には才能ある人がいなかった。
- \*日本を二つに割る戦いは望むところではない、ならば新しい国を創ることは.....

\*アメリカに発注したものの引き取りが宙に浮いていた、ストーンウォール号の引き渡しを新政府はアメリカに求めている。これに対し、榎本は国際法にのっとりどちらにも渡さないよう訴え、アメリカはこれを評価した。

## 榎本の夢を砕いた「開陽丸」の沈没

\*榎本に選択が迫っていた、①恭順か②交戦か③独立か。ここで榎本は③の独立を選択し「蝦夷共和国」を宣言する。その主な中味は.....

○重視したのは外交、各国代表に手紙で「反逆者でも賊でもない」と訴えた。これはフランス革命の自由・平等・博愛の精神が影響している。結果アメリカ・ロシア・プロイセンも蝦夷共和国を承認した。

○士官以上は投票で選出した、榎本は総裁に

○ロシアに土地を貸し与える

しかし、新式の軍艦「開陽丸」が暴風により沈没したことで、蝦夷共和国はよりどころとした大きな戦力を失ってしまう。→ 各国大使は中立を撤回した。

\*その後、ストーンウォール号を手にした新政府軍の攻撃を受け、榎本は敗れ獄中の身となる。

\*新政府内で榎本らの処置に関して対立があり、木戸孝允ら長州藩は厳罰を求めたのに対し、黒田清隆はその才能を認めていた。

## 捕えられるが後に新政府の役人に

\*歴史にもしもはないが、開陽丸が沈没していなければ北に「蝦夷共和国」南に「琉球国」が誕生して、今とは違った日本があったかもしれない.....

\*榎本が大切にしてきた「海洋全書」を新政府に渡したが、これを訳すことのできる人材がいなかった。黒田は榎本しか訳せないと考え、頭を丸めて榎本の助命を嘆願した。榎本は獄中で「国のために尽くしたい」と手記を残している。後には榎本を批判する福沢諭吉も助命活動を行っている。

\*明治5年(1872)1月6日特赦により出獄、黒田が次官を務めていた開拓使として任官、北海道釧山検査巡回を命じられる。翌年には中判官に昇進、石狩山地で空知炭田を発見する。

## 駐ロシア特命全権公使に、その後は大臣を歴任

\*明治7年(1874)前任者の病死に伴い、榎本は領土交渉使節に決定し駐ロシア特命全権公使に任命された。

\*同年3月横浜を出港し、6月サンクトペテルブルクに到着しアレクサンドル二世に謁見。

\*領土交渉の末、明治8年(1875)5月7日樺太・千島交換条約を締結した。その後9月にかけて西欧を視察した。

\*明治11年(1878)サンクトペテルブルクを出発し帰国の途に。この時ロシアの実情を知るためにモスクワを経てウラジオストックに至る、シベリアを横断した。そこで、黒田が手配した函館丸に乗り小樽に帰った。

\*1885年12月22日内閣制度が発足、第一次伊藤内閣の逓信大臣に。その後文部大臣・外務大臣・農務商大臣を務めた。

NHK BS「英雄たちの選択」より